

日、米、中をめぐる安全保障の展望

北海道日中関係学会東アジア問題勉強会 2004 年 6 月 25 日 立教大学 高原明生

1. 中国の台頭 その軍事的意味

- * 目覚ましい経済力の伸長（経済規模は世界第 6 位、「世界の工場」、「中国特需」）
- * 国際政治観：リアリズム
 - 平和と発展が現代世界の主題だが、大国の角逐、総合国力競争は続く
 - 総合国力 = 経済力 + 国防力 + 科学技術力 + 民族の凝集力
- * 「国防建設と経済建設の協調発展」（90 年代末より。以前は前者が後者に「服従」）
cf. 「ここ何年か国は最大の努力を尽くして軍費の投入を増やしてきた」（99 年江）
- * 軍事重視の由来
 - ・ 列強に蹂躪され半植民地化された屈辱の近代史の記憶（「落後挨打」）（歴史）
 - ・ 広い国土、長い陸上国境と海岸線（地理）
 - ・ 「政権は銃口から生まれる」軍事力による政権の獲得と維持（政治）
- * 中国にとっての脅威
 - 「覇権主義と分裂主義」：超大国（米国）との、なかんずく台湾絡みの衝突
 - 最近の事例：海南島沖軍用機衝突事件、政府専用機に盗聴器発見
 - 台湾の分離独立は絶対に認めない
- * 冷戦後の新軍事戦略（ポスト湾岸戦争、1993 年）
 - 防衛空間の拡大：大陸本土から領空、領海・経済水域に
- * 国防近代化方針
 - ハイテク局地戦争での勝利のために、人力集約的 科学技術集約的軍隊へ
 - 2004 年より情報化を強調

2. 中国による「新安全保障観」の採用 1990 年代後半からの中国外交の変化

- * 「新安全観（新安全保障観）」協調的安全保障と総合安全保障：多角外交の理念
 - 協調的安全保障 「互信、互利、平等、協力」を核に対話で安保を実現
 - 総合的安全保障 経済、エネルギー、環境、テロ、麻薬、海賊 周辺国と協調
- * 「与隣為善、以隣為伴」周辺外交の強化
- * 「多辺外交」地域における多国間外交の積極化
- * その具体的な展開
 - 上海ファイヴの結成から上海協力機構の樹立（1996～2001）
 - 中国・ロシア・カザフスタン・タジキスタン・キルギス・ウズベキスタン
 - ASEAN 地域フォーラムでの積極姿勢への転換（1996～）
 - ASEAN + 3（日中韓）（1999～）
 - 東北アジアでも日中韓の協調と協力強化を目指す
- * 「和平崛起（平和台頭）」論 様々な評価、解釈
 - 崛起：国際的影響力の拡大、地域強国に向け国防近代化
 - 和平：中国脅威論への対抗、より重要なのは内政方針の側面（国粋主義を抑制）
 - 「与隣為善、以隣為伴」「睦隣、安隣、富隣」「政治上平等互信、経済上互利共赢、文化上交流借鑑、安全上対話協作」（胡锦涛演説@2004 年 4 月ボアオ・フォーラム）

3．朝鮮半島危機への対応

* 朝鮮半島の非核化と戦争回避への動き

2002 年 小泉訪朝（9 月） 新たな核開発計画疑惑（10 月） 中国が六者協議受容へ

2003 年 1～2 月 北朝鮮への送油三日間停止？ パウエル訪中 銭其琛訪朝？

IAEA 理事会、北朝鮮の核問題国連安保理付託決議、中国も賛成

北京で米朝中協議（4 月） 六者（+日韓露）協議（8 月、2004 年 2 月、6 月）

* 中国の懸念・意図

地域の軍事バランスの崩れ

発展のための安定の維持、脱北者・難民の回避

対米関係のカードとしての北朝鮮への影響力行使

4．米国の東アジア政策と将来の東北アジアの安全保障体制

* 覇権の維持 日米安保の強化へ

* 経済的利益の確保 中国を一層重視

* 対中政策の振り子構造：戦略的対抗と経済的関与 対中政策のジレンマ

* 東北アジアに多国間安保枠組みを

六者協議を常設フォーラムに発展させ、非伝統的脅威に共同対処せよ

（米国の利益：反テロ協力および地域安定）

5．日中関係の展開と展望

* 関係発展の障害

安保・エネルギー（尖閣上陸事件、海洋調査船問題、海底油田、ガス田問題）

歴史（靖国参拝、遺棄化学兵器、教科書） 社会（中国人犯罪、日本人集団買春）

* 21 世紀の日中関係

経済交流の拡大深化 継続

03 年：日中貿易 1336 億ドル、日本の黒字 147 億ドル（中国側統計）

「日中韓自由貿易協定が必要」：日本 70%、中国 64%、韓国 75%（日経 04 年 2 月）

エネルギー

北東アジア石油フォーラム（03 年 11 月@東京）：シベリア原油パイプライン問題

「消費国が一致して供給国に対処する必要」「ここに対立すれば、他所でも」

中国の石油輸入 2003 年前年比 33%増（02 年は 10%増） 半分が中東から

戦略物資をめぐる協調の重要性（cf. EU の出発点：欧州石炭鉄鋼共同体）

東シナ海資源共同開発構想を

東北開発

04 年 3 月「2004 年日中経済協力会議於仙台」1700 名含む三省省長、東北 7 県知事

対中 ODA のターゲットに

NGO 交流

あらゆるレベルでの交流を

コンプレックスの払拭

儒教的上下意識を克服、東アジア共同体の成員としてのパートナーシップを